

登録コード:MH164400 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産管理【20M～24M】 Midwifery Management and Administration		
担当教員	中込 さと子 他 芳賀 亜紀子・徳武 千足		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	1単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	母子保健、産科医療の現場において、助産師としての責任を自覚し、チームの一員として共同活動に参加できる。ケアの質を維持、向上するための管理について説明できる。
	文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。	⇔	日本における母子保健活動の管理の必要性とその方法を述べられる。
	MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	人的資源や物的環境、働くための条件を整えて、効果的・効率的・経済的な助産ケアが組織的・帰納的に実践され、妊娠褥婦などに還元できる助産管理を説明できる。 妊娠・出産・子育てを取り巻く科学の進歩、倫理的ジレンマを伴う事象に対し、倫理的・道徳的・創造的に課題に取り組む探求心が深化し、個人と社会の双方に対し、柔軟に応じる感性を身に着ける。
授業で学べる「テーマ」	環境共生、健康長寿、防災減災		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	ここでは「助産管理」の基本と助産業務管理のプロセスと方法、関係法規と助産師の法的義務と責任、周産期体制と地域連携、医療安全と危機管理、助産所における業務管理を学びます。 本授業は、助産学概論、助産診断技術学の諸科目に続いて学び、助産学実習を支える科目です。助産師国家試験受験資格取得のための必須科目として開講します。 また、本授業は、担当教員の周産期医療における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第1回(4月10日2限) 助産管理の基本、助産業務管理の方法 第2回(5月8日2限) 女性と子どもの支援に関わる関係法規、助産師の法的義務(中込) 第3回(5月中旬) 周産期医療における連携 ハイリスク産科医療の助産管理(ゲスト講師) 安全対策、医療事故防止対策を含む。 第4回(5月15日2限) 周産期医療における多職種連携 妊娠褥期のメンタルヘルスの助産管理(ゲスト講師) 第5回(8月) 実習施設の助産管理 課題レポート①作成 第6・7回(8月) 助産所経営と管理(ゲスト講師) 第8回(9月) キャリアデザインについて 課題レポート②作成 授業アンケートの実施		
授業の進め方	日本ならびに長野県の周産期医療システムに関する理論と実際を講義を通じて学びます。 また、助産管理は、助産学実習で妊娠褥婦に対し安全に実習を行い、助産師や産科医等の指導者とのより良い連携を図るための方略を学ぶことができます。 実習前には関係法規を学びます。続いてハイリスク妊産婦を管理する周産期医療センター、ならびに健康な妊産婦を管理する助産所の活動について、実際の施設に出向き、見学を通して学びます。 さらに近年の注目されている産後うつ等の妊産婦へのメンタルヘルスクアに関するゲスト講師を招きます。 助産学の必修科目・実習を終了した時期に自己のキャリアデザインについては、グループワークを通して考えましょう。		
テキスト、教材、参考書	必携書 ①10 助産管理、医学書院 参考図書： ・助産師基礎教育テキスト 3 周産期における医療の質と安全、日本看護協会出版会 ・助産所業務ガイドライン ・産婦人科診療ガイドライン2017		
成績評価の方法	2つの課題レポートを50%の配分で評価し、総合点を最終評価とします。 中間レポートテーマ 「関心がある法規と助産師の関連性」 「実習施設における周産期医療における連携に関する考察」 期末レポート		

成績評価の方法	「助産所、新生児訪問、小グループ健康教育等を通じて、今、求められる地域母子保健施策に関する考察を行う」
成績評価の基準	課題レポートの判定評価は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可とします。 課題レポートについては、それぞれ(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」とし、評価します。 課題レポートおよびディスカッションに関して、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「卓越している（秀）」で90%以上の得点とします。4項目までできていれば「かなり上にある（優）」で80%台の得点とします。3項目までできていれば「やや上にある（良）」とし、70%台の得点とします。2項目のレベルであれば「水準にある（可）」で60%台の得点とします。
事前事後学習の内容	本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間15時間（2時間×7.5回）+自己学習時間30時間（4時間×7.5回）＝45時間 必ず事前学習（リーディング課題）60分程度に取り組むこと。 第1回：1章 第2回：2章 第3回：3～5章 第4回：1～5章 第6～7回：6章
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	中込のメールは以下のとおりです。（snakagomi@shinshu-u.ac.jp） オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。担当教員の研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。